

災害対策レポート：今後起こりうる災害に向けて

「あったらいいな」から「あらんとあかん」へ意識変革

～災害弱者の私が出来る備えを考える～「初めての蓄電池」

「一度、使ってみたい」と思っていた蓄電池。しかし、実際に停電に見舞われてからでは遅いです。今回、大阪西南ロータリークラブ様から贈呈された蓄電池「Jackery 1000Pro」の無料貸出を利用する機会をいただきました。

すでに柏岡翔太さんが『頸損だよりNo.172』に見事なレポートを書かれています。今回は私の生活に不可欠な「エアーマット」に焦点を当て、実際に使用して気づいた点や注意点をレポートします。

1. 使用した機器と事前の準備

- 使用機器：エアーマット「CAPE AIR MASTER TRICELLE」（設定：85kg）
- 検証内容：蓄電池にエアーマットのみを接続し、実際の使用感を検証。

まずは蓄電池を箱から取り出し、すかさず充電コードを繋ぎました。画面には既に「100%」の表示が出ていましたが、念のため小一時間ほどそのまま充電を行い、万全の状態からスタートしました。



2. 実際に使って初めて分かった「ハプニング」と「気づき」

取扱説明書を最初に読んでいれば回避できたミスですが、付属の取扱説明書は文字が小さく、老眼の自分には厳しいものでした。そのため、後から「Jackery」の取扱説明書をパソコンで拡大しながら再チェックし、以下の盲点に気づきました。

① コードを挿すだけでは動かない（AC出力ボタンの存在）

コードを挿せば通電するものと思い込んでいましたが、AC差し込み口の横にある「AC出力ボタン（スイッチ）」を押さなければ給電されません。最初に入らず一瞬焦りました。

② 残量確認時のボタン押し間違い

途中でバッテリー残量を確認しようとして、間違えて「AC出力ボタン」を押し、エアーマットの電源を切ってしまうハプニングがありました。しばらく経ってから気づき、慌ててスイッチを入れ直しました。

③ 残量警告灯（20%）と表示時間のズレ

バッテリー残量が20%になると警告灯が点灯し、ディスプレイに「OUTPUT 6W / 残り11.6時間」と表示されました。しかし、**実際は表示通りの時間までは使用できませんでした。**

エアーマットは電源が切れてもすぐには沈み込まないため気づきにくいですが、今回は早めに気づいたため、幸い「底づき」による褥瘡（床ずれ）のリスクは回避できました。



④ 盲点だった「省エネモード（自動シャットダウン）」

エアーマットのように消費電力（出力）が小さい機器の場合、初期設定の「省エネモード」のままだと、**12時間で自動的に電源が落ちてしまいます。** 長時間連続で使用する場合は、この設定を必ず確認・解除しておく必要があります。

3. 実践から得た「注意すべき点」まとめ

実際に動かしてみて分かった、運用上の重要ポイントを整理しました。

確認項目	注意内容と対策
連続使用時間の目安	エアーマットのみの使用であれば、約2日間の連続使用が可能（※1）
通電のW（ダブル）チェック	AC出力ボタンのランプ（緑色）が点灯しているかと同時に、エアーマット本体の電源が入っているかを必ず目視する
残量確認の方法	使用中に残量を見るときは、必ず「LCDボタン」を押す。間違えて隣のAC出力ボタンを押さないよう細心の注意を払う
警告灯点灯時の対応	バッテリー残量警告灯（取扱説明書2ページ「3.液晶画面の⑥」）が点灯したら、表示時間（⑨）を過信せず、なるべく早めに充電を開始する
省エネモードの解除	長時間連続使用の際は、省エネモードになっていないかを必ず取扱説明書で確認する
介護者への周知徹底	長時間運用では操作する介護者が交代するため、誰が変わってもきっちり説明・操作できるようにマニュアル化しておくことが不可欠

（※1）使用環境やバッテリーの状態によっては短くなる場合があります

4. 命を繋ぐためのリスクと、これからの備え

取扱説明書には、以下のような注意書きがあります。

「データサーバや医療機器など、非常時に不具合が起こると人命/財産に重大な危険を及ぼしうる用途でのご使用はお控えください。心臓にペースメーカーを装着している方は使用しない。」

しかし、私たち身体障害者にとって、生きる上で電気（エアーマットや生命維持に関わる機器）は「あったらいいな」ではなく、どうしても必要な「あらんとあかん」ものです。

メーカー側のリスク回避の規約を理解しつつも、インフラ事故や災害はいつ起きるか分かりません。私たちは機器によるリスクに細心の注意を払いながらも、災害弱者の立場から「命を守るための現実的な備え」を主体的に考えていかなければならないと痛感しました。

おわりに

最後に、今回の蓄電池無料貸出という大変貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。蓄電池の必要性を我が事として、真剣に考える素晴らしいきっかけとなりました。

大阪西南ロータリークラブ

大阪頸髄損傷者連絡会 「蓄電池無料貸出プロジェクト」

WADACHI

の皆様へ、深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。

今後起こりうる災害に向けて /
蓄電池無料貸出

買うのは高いよな...
防災って何から始めればいい?
気になるけど、本当に必要?
一度、使ってみたら

Jackery Solar Generator 1000 Pro 100Wh ソーラー充電器
蓄電池無料貸出プロジェクトの協賛先です。

2024年6月に大阪西南ロータリークラブ様より、Jackery社のソーラーパネル内蔵の蓄電池を無償していただきました。この蓄電池は呼吸器のバッテリーの充電はもちろんのこと、たんこぼりや様々な医療機器、福祉機器に対応する事ができ、災害時などの有事の際には頸髄損傷者の命を守る事ができます。また、蓄電池を災害時だけに使うのではなく、平時から日常生活の一部として活用する事で、取り回しに慣れる事で、日常からの防災意識が高まります。この度、大阪頸髄損傷者連絡会の会員の皆様へ無償で貸出を行う事が決定いたしました。貸出期間は1年間としており、台数には限りがあるので先着順とさせていただきます。また、蓄電池のお引き渡しはこちらの指定の場所、もしくはご自宅等へ送付もさせていただきます。貸出を希望される方は下記のQRコードにあるリンク先よりお申し込みフォームよりお申し込みいただけますよう、よろしくお願い致します。

お引き取り場所
WADACHI
〒552-0021
大阪府大阪市東区東2丁目6-30
大塚メトロ中継「大塚駅前」
2階出口より西へ徒歩5分
※貸出日より西へ徒歩5分

お申し込み
QRコード

大阪頸髄損傷者連絡会
事務局 info@okelson.com

金沢 伸行